

第31回 日本篆刻展開催



小中学生篆刻作品コーナー

全国規模の篆刻のみによる唯一の公募展「第三十一回日本篆刻展」が四月十五日から十九日まで兵庫県立美術館王子分館（原田の森ギャラリー）で開催された。



常任委員、評議員作品コーナー



原田の森ギャラリー正面の大きな看板



幹部作品コーナー

日本篆刻家協会会報

第15号 平成27年10月31日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853
E-mail: info@n-tenkoku.jp
<http://www.n-tenkoku.jp>

会場入り口から奥を望む（南側）



公募、会員作品コーナー



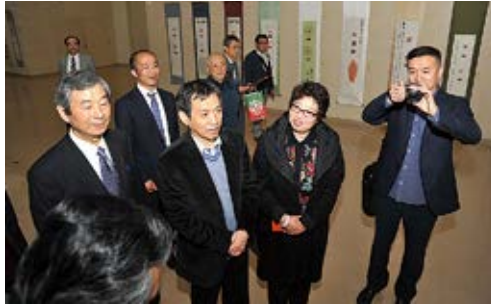
会場入り口から奥を望む（北側）

第三十一回日本篆刻展は公募作品五十三点（前年比△十二点）、会員作品二百二十五点（前年比△四十六点）、委員作品二〇一点（前年比△四十九点）、常任委員作品二〇六点（前年比△四二点）、役員作品二〇二点（前年比△二二点）の合計八八七点（前年比△一三三三三三）が、二階大展示室一堂に展示された。総出品点数は前年比約十一％減少したが、作品内容は個性豊かな表現がより充実されたものが多く、見る者に感動と楽しさを与えるものであった。

特別展観として『中国芸術研究院 中国篆刻研究院 招待作家』四十二名の作品が展示され、現在の中国篆刻家作品を一度に見る事のできる貴重な機会となった。今回展示された招待作家は次のとおりである。（順不同 敬称略）

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 韓天衡 | 賂芃芃 | 王丹 | 尹海龍 |
| 朱培爾 | 冷旭 | 谷松章 | 范正紅 |
| 洪亮 | 徐正濂 | 徐利明 | 徐慶華 |
| 桑建華 | 郭強 | 許雄志 | 張索 |
| 張煒羽 | 張奕辰 | 張躍飛 | 孫家潭 |
| 孫慰祖 | 曹錦炎 | 崔志強 | 馮宝麟 |
| 童衍方 | 趙熊 | 翟万益 | 劉一聰 |
| 劉彥湖 | 劉洪洋 | 謝欽銘 | 戴武 |
| 鞠稚儒 | 魏傑 | 蘇士澍 | 徐雲叔 |
| 陸康 | 陳建坡 | 周澄 | 陳坤一 |
| 河野隆 | 鄒濤 | | |

尾崎理事長の案内で熱心に鑑賞する中国芸術院の訪日メンバー



大勢の参観者でにぎわう会場



昨今の少子高齢化に伴う篆刻人口減少に対する試みとして昨年から始まった、併設の『小中学生篆刻作品展』には、全国各地から五〇七点が寄せられ、二年連続五〇〇点を超える出品があった。小中学生の篆刻に対する興味・関心の高さは継続して高く、作品の出来栄も昨年にならぶ秀逸なるものが多く見られた。親・子・孫と三代揃って会場で作品に見入る姿、作品の前で記念撮影をする姿に微笑ましく感じるとともに、若き篆刻家たちの成長に大きく期待を膨らませた。継続して根気よく指導された各地指導者の熱意とご努力に頭が下がる思いである。(黒田玉洲)



小中学生篆刻作品コーナー



会場奥から入口方向を望む

授賞式で挨拶する尾崎蒼石理事長



授賞式
四月十八日午後、ANAクラウンプラザホテル神戸で開催され、全国から会員二百二十六人が参加した。



全国からの参加者でいっぱいの会場



梅舒適賞受賞者左から大村雪陵、長谷川拓石、中林千影各氏



受賞者を代表して謝辞を述べる村松常任委員

理事長挨拶、第三十一回展概要報告及び本年度審査員紹介の後、賞状賞品授与に移った。公募、会員、委員の部、会員推薦賞、秀作賞、特選、日本篆刻展奨励賞は各賞ごとに受賞者が紹介され、井谷五雲副理事長から代表者に渡された。常任委員、評議員の部、日本篆刻展優秀賞、同準大賞、同大賞、梅舒適賞は尾崎蒼石理事長から各人に手渡された。また、寄託賞の兵庫県知事賞、兵庫県教育委員会賞は兵庫県芸術文化課赤松和則副課長から、神戸市長賞、神戸市教育委員会賞は神戸市文化交流部宮道成彦担当課長から、兵庫県芸術文化協会賞は同協会山根隆夫総務部長からそれぞれ受賞各人に贈られた。来賓紹介に続き、中国芸術研究院牛根富副院長、兵庫県赤松和則副課長の祝辞があり、受賞者を代表して大賞受賞の村松瓊玉さんが謝辞を述べた。



賞状を贈る井谷副理事長



兵庫県芸術文化課赤松副課長



神戸市文化交流部宮道担当課長



(公財)兵庫県芸術文化協会山根総務部長



手渡す尾崎理事長

出品者懇親会

引き続き、同所で出品者懇親会が開催され、受賞者を祝福した。来賓紹介、駱芑芑院長、河野隆会長から来賓挨拶、上位入賞者紹介等が行われ、全国からの参加者が歓談、交流を深めた。

(渡邊和琴)

主な来賓

中国芸術研究院牛根富副院長、同院中国篆刻研究院駱芑芑院長、同尹海龍研究员。

兵庫県立美術館養豊館長。兵庫県企画県民部芸術文化課赤松和則副課長。神戸市市民参画推進局文化交流部宮道成彦担当課長。公益財団法人兵庫県芸術文化協会山根隆夫総務部長。全日本篆刻連盟河野隆会長。書法漢学研究会大野修作理事長。他 計十六人

挨拶する尾崎善石理事長



山下方亭常任顧問の首領で乾杯



壇上で紹介される梅舒適賞、大賞、準大賞受賞者



中国芸術研究院駱芑芑篆刻芸術研究院院長



河野隆全日本篆刻連盟会長



会場を埋めた大勢の全国からの参加者

第七回日本篆刻家協会役員展

第七回日本篆刻家協会役員展は古河市の篆刻美術館で四月二十五日(土)から六月二十五日(木)までの二か月間開催されました。

美術館主催としての開催は今年で二年目となりました。第一回から第六回まで精力的に運営や指導に尽くされた白井館長が転出され、新年度すぐの開催となること、伊藤新館長の下で第七回展が前館長の助言もあり、滞りなく開催されました。作品は参事・理事以上三十三点、常務理事以上四十一一点、関東地区の参与・評議員の額装作品九点を加えて計八十三点でした。昨年度から春から梅雨入り前の好季



節に会期を設定して開催できるようになり、市域にその範囲の一部がある二〇一二年にラムサール条約に登録された「渡良瀬遊水池」の自然観察を楽しむ人たちが室町の昔、足利成氏の「古河公方」の地を観光に來られる方など、篆刻に疎遠な方も数多く見学に立ち寄り、私たちの作品を鑑賞して頂いたようでした。書画と一体化した篆刻作品を観覧した人からは、幅広い表現方法に接することができたという、感動の言葉も聞く事ができました。なお、期間中の観覧者は一二二一名でした。(市川兩僊)

尾崎蒼石理事長の話に耳を傾ける全国からの参加者



第八回中央研究会

八月二十二日(土)～二十四日(月)の三日間、シーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催され、全国から一五四名が参加した。

一日目

正午から受付が始まり、午後一時三十分 真鍋井蛙副理事長の司会のもと開会。尾崎蒼石理事長の挨拶、分刻課題陸游の詩について説明をされた。

その後、引き続き尾崎蒼石理事長による「陳介祺の研究」の講義があった。『金石』とは何かから始まり、金石学の起源のお話、そして陳介祺が金石の蒐集と研究に精力を注いでいった背景が解説され、興味深い内容であった。また、会場両側には、ご自身のコレクションの中から、毛公鼎器形原拓の軸や、園田湖城旧蔵の陳介祺の楹聯、陳篋齋旧蔵古銭範原拓片や古陶文原拓冊、原鈐印譜、尺牘、影印本資料等、貴重な品々を陳列して下さり鑑賞することが出来た。先生は、資料を蒐集して研究し、自らの作品制作に応用して下さいと締めくくられた。講義終了後、各自宿泊室へ移動して、分刻作品の制作となった。夜、企画委員会と生誕百年梅舒適展準備委員会が開かれた。

会場いっばいに並べられた印譜等の資料

机上だけでなく壁面にも展示

二日目

午前中は各自制作。舞子の間では池田泥異・黒田玉洲・田中修文・古溝幽畦各

3階大広間を遅くまで自由に使える勉強の場に開放



幹部役員による添削指導



先生による添削指導が行われた。
午後二時から、第一部、山下方亭常任顧問の「私の印の見方」の講義があつた。

た。「呉昌碩」では、呉昌碩が日本の篆刻界、特に河井荃廬・松丸東魚・梅舒適先生に与えた影響について解説された。中でも呉昌碩の石をたつき雅味をつける行為の結果を『残破美』と表現したという葉一葦『篆刻欣賞』からの説明は、印象的だった。休憩をはさみ、第二部、真鍋井蛙副理事長の「会員作品」では、会員六名の作品が、壇上スクリーンに大きく写し出され、ビフォーアフター形式での講義となった。最近の審査会に出られた様子を踏まえた上で先生の印の見方を話され、一つひとつの印に補筆や新たな印稿を添えられた。また『負けない篆刻』を指し、まずは文字の時代統一、そして文字を正しく扱う上で、書の勉強は大切だと述べられた。

夜の記念懇



夕食を兼ね懇親会



講演する真鍋井蛙副理事長



講演する山下方亭常任顧問

親会は、黒田玉洲常務理事の司会で、各公募展成績披露が古溝幽畦常務理事からあった。その後、カラオケの余興で会場は大いに盛り上がった。午後八時三十分からは、十年ぶりに会員持ち寄りによるオークションが、喜多芳邑代表理事の司会で開催された。印材・筆・水差し・本・瓦陶等、七十数点が出品され、壇上スクリーンに写し出されていた。皆の大きな声があがり、楽しい一時となった。

三日目

印社代表者

会議、そしてチェックアウトの後舞子の間に集合し、分刻課題を提出した。小林圃代表理事から講評があり、自分を表現することの大切さを説かれた。

尾崎蒼石理



印社代表者会議

言葉では、師に頼らずもつと自分で研究し制作するようにと諭された。そして、来年の研究会は八月六日〜八日に同会場、講師として全日本篆刻連盟副理事長の柳涛雪先をお招きし、木印の講義をしていただく予定であることが発表された。



小林圃代表理事による講評と研究会のまとめ

た。期待の膨らむ中、無事解散となった。
(関踏青)



三月課題 「一點素心」

役員(酒居石莊選)



拓石



早知子



祥庵



克彦



汀華

常任委員(堤白遊選)



秀風



明



惠草



墨石



周作

委員(古瀧幽畦選)



眞壽男



容史子



龍孫



桂峰



寶樹

會員(中村葉舟選)



黃瑞



一哉



美智子



惠理子



勝山

一般(長谷川帰海選)



碧翠



勝竹



和子



紅華



景造

四月課題 「疑心生暗鬼」

役員(小朴園選)



青露



之然



朱華



白水



彦裔

常任委員(松本雅至選)



戲石



惠子



井泉



秀風



碧泉

委員(石原豊玉選)



雪峰



極浦



龍孫



智香



桂峰

會員(御手洗肩山選)



登志美



梅風



幸園



勝山



信夫

一般(伊佐治祥雲選)



青榴



豊



進



幽篁



正子

- 【役員】 石間青露 ○長谷川拓石 ○武友草子 ○阿部祥庵 ○名倉克彦 ○今西九郎 ○浅良朱華 計五五人
- 【常任委員】 安井芳泉 ○津田秀風 ○川久保明 ○大城容三子 ○鈴木恵草 ○鈴木恵子 ○鈴木桂峰 ○鈴木美智子 ○大野勝山 ○中野碧泉 ○大塚秋露 ○池谷玉樹 ○田原群蛙 ○福谷華紅 計六三人
- 【委員】 根本哲男 ○根黄瑞 ○小澤一哉 ○鈴木美智子 ○大野勝山 ○田中滋 ○井上秋鹿 計六五人
- 【會員】 牛島鈴輪 ○國江碧翠 ○松島美葉 ○板屋玉芝 ○廣瀬幽篁 ○吉田豊 ○田邊進 ○遠藤幽篁 ○小澤宣 ○片岡和子 ○大平正子 ○石場濱州 計二十九人

- 【役員】 今西九郎 ○石間青露 ○畑留之然 ○浅良朱華 ○大槻彦安 ○古野燕安 ○山崎一雄 計四七人
- 【常任委員】 高橋忠義 ○白幡雪峰 ○松永平峰 ○松本雅至 ○西野謙之 ○渡邊尚石 ○番定静山 ○川久保明 ○青木藏生 ○上野鶴羽 計六五人
- 【委員】 荒井典惠 ○矢田高秋 ○中村紀久 ○大野勝山 ○松村信天 ○内藤正男 ○土屋功勝 ○萬谷碧風 ○大井智香 ○鈴木桂峰 ○柴久利江 計六五人
- 【會員】 井上秋鹿 ○成瀬志美 ○森下正義 ○大崎一嘉 ○吉田豊 ○田邊進 ○遠藤幽篁 ○小澤宣 ○片岡和子 ○大平正子 ○石場濱州 ○須田桃苑 計二十九人

「默而識之」

役員(多田龍淵選)



燕安



彦裔



早知子



拓石



明峯

常任委員(出田塘段選)



喜久



静山



平峰



康生



明

委員(黃平齋選)



静二



秋露



宝樹



宏健



極浦

會員(伊藤雅夫選)



弘子



幸園



江洲



弘泰



光雄

一般(黒田玉洲選)



進



英子



碧翠



玉芝



豊

〔役員〕 宇於齋室

- 古野燕安 木村容甫
- 大槻彦裔 今村荊圃
- 武友知子 吉田宗里
- 長谷川拓石 畑間青露
- 石亀明峯 小山谷洲
- 岡上汀華 岡上翔石
- 石留之然 宮野宗雄

計五三人

〔常任委員〕 吉田鏡水

- 藤田喜久 鈴木白遊
- 大塚秋露 松木城山
- 松永平峰 青木雄山
- 月森康生 長谷山墨君
- 川久保明 黒田悦子
- 鈴木惠草 稲垣竹扇
- 中島敬次 秋山捷華

計六七人

〔委員〕 吉岡雅生

- 福谷華紅 永井漢舟
- 森静二 中村紀久
- 池谷宝樹 西岡賢美子
- 奥島極浦 鈴木桂峰
- 萬谷碧風 白幡雪峰
- 中龍孫 内田哲舟

計六八人

〔會員〕 土井妙子

- 北岡弘子 荻野幸弘
- 中野勝山 乙寺容子
- 井上江洲 高木啓志
- 馬場弘泰 長沼梅風
- 松本光雄 武田之信
- 大野勝山 田中滋
- 武田秀秀 鈴木美智子

計六一人

〔一般〕 松島青楓

- 田邊進 広森勝竹
- 後藤英子 大平正子
- 國江碧翠 諷晶石
- 板屋玉芝 遠藤幽室
- 吉田豊 堤黄瑞
- 片岡和子 小澤宣
- 楊八哥 宮内紅華

計二六人

「言加信」

役員(中島春緑選)



之然



容甫



燕安



彦裔



汀華

常任委員(榊原晴夫選)



紳丘



龍神



尚石



明



平峰

委員(武井岳峰選)



昌雲



秋露



龍泉



唯文



芳翠

會員(熊本晴文選)



一哉



悦治



秋鹿



散花



幸弘

一般(南岳采露選)



幹男



八哥



和子



幽室



紅華

〔役員〕 藤羅尚子

- 石留之然 吉田宗里
- 木村容甫 名倉克彦
- 古野燕安 古瀬草石
- 大槻彦裔 杉本素月
- 岡上汀華 水野和香
- 南敏子 増田繁治
- 村田祥風 渡部芳月

計五三人

〔常任委員〕 佐藤翠龍

- 奥島輝丘 河瀬魚仙
- 寄田龍神 山内昂波
- 渡邊尚石 青木鐵生
- 川久保明 井本敏子
- 松永平峰 岡田泰道
- 鈴木惠草 長谷山墨石
- 立見登 藤崎澄子

計六七人

〔委員〕 平松清嗣

- 森井昌雲 磯村育治
- 大塚秋露 鈴木耕石
- 三枝龍泉 奥島極浦
- 遊寺唯文 関由紀夫
- 向畑芳翠 永田乾石
- 吉岡龍生 福谷華紅
- 倉永柳葉

計七二人

〔會員〕 相良ほろ子

- 小澤一哉 松浦雅宣
- 伊神十博 伊神十博
- 井上秋鹿 相川良孝
- 池田散花 坂中弘
- 芦野幸弘 鈴木美智子
- 小松五岳 岡本浩二
- 松村信夫 木田好昭

計五九人

〔一般〕 板屋圭芝

- 石田幹男 三井顔子
- 楊八哥 中本菅玉
- 片岡和子 松島青楓
- 遠藤幽室 川尻政夫
- 宮内紅華 國江碧翠
- 後藤英子 田邊進
- 堤瑞恵 楊慧美

計三二人

七月課題

「蛩雪」

役員(渡邊和琴選)



早知子



拓石



吳山



燕安



米子人

常任委員(堤白遊選)



忠義



尚石



翠龍



城山



道男

委員(古溝幽畦選)



宝樹



容史子



碧風



極浦



育治

會員(奥田農生選)



勝山



一哉



幸園



秋鹿



梅風

一般(田中修文選)



幽篁



和子



管玉



顔了



幹男

- 〔役員〕 畑間青露 ○武友早知子 上田静哉 ○長谷川拓 今西九郎 ○田原真山 浅良朱華 ○古野燕安 杉本素月 ○遠藤米子 吉田宗里 水巻游光 野野和香 岡上汀華 樺野麗琴 計五三人
- 〔常任委員〕 山崎井泉 ○高橋忠義 月森康生 ○渡邊高石 中島敬次 ○佐藤翠龍 吉田鏡水 ○鈴木城山 北畑謙之 ○浅野道男 上野鶴羽 ○磯村育治 奥島極浦 ○磯村育治 白幡雪峰 ○小林英昭 鈴木耕石 中龍孫 計七三人
- 〔委員〕 向田芳翠 ○土原勇勝 洪谷春壽 ○天野勝山 井畑喜南 ○大澤一哉 岡田正雄 ○小澤幸園 兼子悦治 ○井上秋鹿 馬場弘泰 ○長沼梅風 松浦雅宣 山本智子 根本哲男 計六一人
- 〔會員〕 川端景司 ○遠藤幽室 田邊進 ○片岡和子 楊八哥 ○中本管玉 三宅洋子 ○石田幹男 大平正子 ○石田幹男 後藤英子 ○石田幹男 廣森勝竹 計三〇人

八月課題

「盡死力」

役員(山下方亭選)



明峰



汀華

常任委員(松本雅至選)



墨石



泉雲



惠草



紳丘



捷華

委員(黃平齋選)



龍孫



典惠



榮子



雪峰



碧風

會員(御手洗肩山選)



信夫



正雄



幸弘



華山



梅風

一般(草田翠苑選)



英子



進



鈴輪



碧翠



瑞恵

- 〔役員〕 今村重圃 ○畑間青露 ○石亀明峰 畑間青露 ○岡上汀華 荒崎御仙 ○今西九郎 田原真山 ○田中九成 小谷知淵 ○水巻游光 高野弘深 ○野野和香 長谷川拓石 藤崎澄子 古野燕安 藤崎澄子 計五一人
- 〔常任委員〕 滝口照影 ○立石見聲 ○中龍孫 藤本蘇西 ○荒井典惠 美川磯舟 ○鈴木忠草 山内昂波 ○奥島脚丘 佐藤翠龍 ○秋山捷華 稲葉桂峰 ○宮本瑞邦 安井芳泉 ○藤崎澄子 永野草翠 計六三人
- 〔委員〕 伊谷昌子 ○藤本蘇西 ○松村信夫 金子光昭 ○岡田正雄 岡本浩一 ○中井榮子 小嶋瑞碩 ○白幡雪峰 田原群蛙 ○萬谷碧風 安保匠 ○森井昌雲 山下登雲 計七〇人
- 〔會員〕 清水出男 ○後藤英子 ○田邊進 中本管玉 ○牛島鈴輪 石田幹男 ○長沼梅風 乙守谷子 ○胸見華山 木田好昭 ○相長志子 森下正義 ○國江碧翠 石田幹男 ○石田幹男 廣森勝竹 ○須田桃苑 楊八哥 計三二人

展覧会成績

第六九回日本書芸院展

- 史臣賞 黒田玉洲
- 大賞 井後雅堂 大庭景雲 丹下青風
- 寺田濤雲 古野燕安
- 特別賞 岸村爽風 北田成磊 鷹取麗水
- 谷椋洲 妻鳥明子 西岡青淡
- 矢倉心華 山吹縁 吉原愛璃

第六一回全関西美術展

- 全関西美術展賞 第二席 渋谷春好
- 全関西美術展賞 第三席 妻鳥明子
- 全関西美術展賞 佳作 松野碧泉
- 日本書芸院大賞 下井嶂葉
- 日本書芸院展賞 黒田悦子 古野燕安 前田碧山
- 嵯峨洛山 平田征男 滝上溪水
- 安井芳泉 松坂聖岳 阪口香雪

第三二回 読売書法展

- 読売準大賞 小林圃
- 読売新聞社賞 池田泥異
- 読売俊英賞 中村葉舟
- 読売奨励賞 東尾高岳 竹内立女
- 特選 石留之然 奥島春冷 嵯峨洛山
- 小林千影

秀逸

- 青木雄山 小森香苑 坂上香帥
- 水巻游光 吉田雅風 宇都宮蘭雪
- 平富耀 平田征男 新井散葉
- 寺田濤雲 戸出九廬 細川恵苑
- 山崎井泉 北田成磊 大庭景雲
- 古瀬章石 武田黎秀 松本弘碩
- 大原誠

告知

日中篆刻芸術交流展

会期 十一月一九日()
 会場 広西美術館篆刻芸術館 中国広西省南寧市

展示内容

- 中国側 中国現代有名作家作品
- 日本側 理事以上の三十一回展出品軸作品
- 理事以上の寄贈篆刻作品(印影・印材)

交流行事

- シンポジウム
- 書会
- 記念パーティー
- 開会式・交流行事に日本篆刻家協会訪中団 派遣予定

青鏡忘詠(十一)

小林圃

「画法三訓」

文人の書簡に注目しはじめた頃に、書家と違い、画家や彫刻家等々の書簡は、文字を書くことが専門ではないだけに、書的に見ると一見崩れたように見える造形も、実に豊かな表現があることに驚き、また、その文においても堅苦しい文体に関係なく、思いのままに展開しているものが多いのに救われた思いがしたものであった。

そのころに求めた津田青楓が若者に宛てた書簡の中に、左の画法三訓があった。以来時々取り出して読み、身についた垢を取り除くようにしている。

一板

画法 三訓 懶 龜
 一点一画にも濃淡の変化が無ければ板の如し

二刻

筆とりて遲疑逡巡するは
 従者の王に扈従するが如く非也
 スベカラク王者の心にて筆をはごぶべし

三結

筆をとる前既に心に無声の詩を描く
 可シ然らざれば筆結滞して功成らず

津田青楓(一八八〇—一九七〇)

画家、随筆家、京都生、本名龜一郎、日本画、洋画、水彩画を学びフランスへ留学。帰国後漱石一家の画の手ほどきもした。



写真提供 楽家



今回も吳昌碩が刻した犬養木堂（一八五五～一九三二）の用印を紹介する。印材は高山系の美材で、ご覧のとおり精密な鈕が刻されており、後日紹介しようと思っている「子遠」（朱文）と対章になっている。側款には「木堂先生篆刻。苦鐵。」と刻されており、犬養木堂が吳昌碩にこの印を依頼したことが分かる。（案とは求める。欲求するの意）



印面拓



印影①



印影②

さて印影を見てみよう。①は一般的な種々の本で見られるもの②は今回印面を見ながら鈴印したものである。①の「犬」字右上方はほとんど朱が出ていないが、印面からすると呉昌碩は②ぐらいの表現にしたかったのではないかと思われる。この拡大した印面を見ると呉昌碩の運刀がよく理解できるであろう。刀の入る角度は一部を除き急ではない。どちらかといえば印材を削ぐように運刀されている。そして「毅」字几部や「養」字良部の屈曲部は刀で印材をグリグリと、こじ開けたが如くに見える。起筆、收筆には、燕尾のようなところも見えるが印影にはそれが出てこない。「印」字爪部は少々力を抑え「養」字のポリウムとの対比を試みたのであろうか？刀圧がやや抑えきみで線中央に石の残が見られる。この刀圧の変化によってこの印のスケールが大きくなり、生き生きとしたものになっているのは間違いない見方であろう。

各印社活動 トピックス

第十四回平田蘭石八人展 関中印社選抜書作品展



菖蒲がそろそろ咲き始めるころ、平田蘭石先生と日本篆刻家協会の評議員以上の七人五十五点による選抜展が、六月九日～十四日まで、

で、せき・まちかどギャラリーで開催され、四百十名のご観覧をいただきました。社中展という自由な作品作りで、ひとり一人の個性が、作品の構成、軸装の色、古額手作りの額など、一般の書道展とひと味違う雰囲気を出していました。

来観者の中には、こういう作品を見るのは初めてという方も多くみえましたが、「墨と朱と余白」の関係がとても面白いとか、絵画のようだという方もみえました。文字創造の原点という難しい課題を、師の指導を仰ぎ、先人達の風格に少しでも近づけるよう精進を重ねていきたいと思っています。(伊藤梅香)

第六回 稻香印社展



六月二十三日から二十八日までの六日間、名古屋市民ギャラリー栄にて開催した。大印小印の篆刻作品

書作品、陶印、総数百三十点を展示した。今回は恒例の陶印を各自折帖に仕立てて発表した。作り方、釉薬等についていろいろな質問も有り関心をもって観ていただいた。又、受付に協会会報を用意したところ早々に完了し、篆刻について知っていたく良い案内になったと思う。会期中約七百五十名の来場が有り、バライティに富んだ楽しい作品展との感想もいただき、次回に向けて更なる励みになる嬉しいことであった。(横井青蓮)

第三五回 越思篆会篆刻作品展

七月十七日(金)～十九日(日)まで第三五回越思篆会篆刻作品展及び、富山市民大学篆刻同好会作品展の合同展を開催致しました。

会場の富山市民会館は昨年一年をかけて耐震工事と内外装のリニューアルを行い、今年三月に再稼働したばかりで、展覧会会場も一新され気持ち良く開催が出来ました。



出品会員は毎年、拓本や水墨画・版画などを添えた作品を製作し、初めて篆刻作品を見る方にも親しんでもらえる様、工夫を施す作品を展示しています。

題した、地元の書作家と中央の先生方の書展が同期間、同会場で開催があり、そちらの来場者のお客様にも足を配んで頂き例年にも増して、賑わった展覧会となりました。(大村雪陵)

第二四回 篆刻と書 遠邇篆会展



今回は九月三日より一週間の展示とし十数年ぶりに会場を浜松市から磐田市に移して市立中央図書館で開催しました。十五名の会員が近作四十点の出品に加え、旧会員四名の作品五点をお借りし壁面へ。又、中央の机

上に「日本の七十二候」の内、秋～冬、を小印で二候ずつ分刻して印材とともに展示しました。その他にも十数点の陶印出品もあって入場者の目を楽しませることが出来たのかなと感じています。

磐田市での篆刻展は珍しさもあってか図書館利用者も多く立ち寄っていただき四百八十名の方々にご覧いただくことが出来ました。今回の開催に向けては会員の研鑽は固より、篆刻に興味をもつ人が増え、会員の増加に繋がることに期待しています。(鈴木紀山)

第三十五回 北庄篆会展



九月二十二日～二十四日福井県立美術館において第三十五回北庄篆会展を開催し、連休で秋日和の中、多数の方々に来場いただいた。

今回のテーマである李白詩「峨眉山月歌」を分刻し十六人が出品した。また、唐詩や漢詩を題材にして、オーソドックスな篆刻作品や半切二分の一の篆書作品と合わせて約六十点を展示した。会場にはそれぞれの個性が表現されていた。参考陳列として、石印材・硯等の古玩を展示してあり、訪れた人はじっくりと見入っていた。(T)

月例作品募集（2016年）

	課題	出典	意味
1月	臭如蘭	易経	臭(かおり)蘭のごとし。
2月	浅則掲	論語	浅ければすなわち掲す。時世に合わせて生きる。
3月	翻焼餅	唐宋遺事	焼き餅を翻す。事をなすのが容易いこと。
4月	呼牛呼馬	荘子	牛と呼び馬と呼ぶ。他人の言葉にそのまま従う。
5月	燕雀相賀	淮南子	燕雀相い賀す。家の落成を賀す。
6月	烏之雄雌	詩経	烏の雌雄。物事の善悪是非がわかりにくい。
7月	家書抵萬金	杜甫詩	家書、萬金に抵(あた)る。家族からの手紙はこの上なくありがたい。
8月	漁歌入浦深	王維詩	漁歌、浦に入って深し。 世に認められなくても泰然と生きことを背景に持つ語。
9月	萬戸擣衣聲	李白詩	万戸(こ)衣を擣(う)つの声。全ての家々から砧を打つ音が聞こえる。 出征兵士の妻のやるせない気持ちを背景に持つ。
10月	主人公	無門関	本来の自己
11月	叩囊底智	史記	囊底の智を叩く。ありったけの知恵を絞る。
12月	有錢可使鬼	晋、魯褒	錢有れば鬼を使うべし。地獄の沙汰も金次第。

応募要項

- ① 一般は一般を、一般以外は会員 CD を必ずご記入ください。未記入の場合は審査対象外となります。
- ② 印の大きさは一寸以内、用紙は協会指定印箋（篆社印箋も可）
- ③ 応募は各月1人1点、締め切りは各月末日（消印有効）

送付先 〒563-0032 大阪府池田市石橋2丁目2-10 牧野ビル203

日本篆刻家協会「〇月課題」係

お問い合わせ（協会事務所）TEL072-760-3852

お詫び

会報十四号十一月月例課題「四時氣備」役員の発表に誤記がありました。お詫びして訂正します。

誤 山本智子 正 山本恵子

展覧会案内

- ▼ 畦石舎(小林圃)
篆刻・書・画
第三〇回畦石舎作品展
会期 一〇月二日～三日
会場 京都市日岡デザイン
- ▼ 齊平篆会(真鍋井蛙)
第一八回齊平展
会期 一〇月二日～四日
会場 大阪くらしの今昔館
特別陳列：河西笛洲・近藤尺天
- ▼ 随風會(山下方亭)
第三〇回記念随風会篆刻展
―青桐印社との交流展―
会期 一〇月三日～一八日
会場 京都市立美術館
- ▼ 不華篆会(酒居石荘)
デザインとして見る篆刻の展開
不華篆会習作展XXIII
会期 一〇月三十一日～十一月一日
会場 伊丹市立工芸センター
十一月三日～二日に兵庫県立丹波の森公苑で巡回展
- ▼ 蒼文篆会(尾崎蒼石)
第一六回蒼文篆会展
会期 十一月二七日～二九日
会場 大阪美術倶楽部
特別陳列：戦国古陶
中国招待：山東印社代表作家作品
- ▼ 墨染印社(黄教奇)
第三三回書道篆刻作品展
会期 十二月一日～六日
会場 静岡市民ギャラリー

報告

- ▼ 寧和印会(喜多芳邑)
第七回寧和展
会期 十二月一〇日～一三日
会場 奈良県文化会館
- ▼ 娛揮文会(井谷五雲)
第一一回娛揮文会展
会期 十二月一日～一三日
会場 神戸市兵庫民会館
- ▼ 篆誦社(古溝幽畦)
第八回篆誦社游藝展
会期 十二月二五日～二七日
会場 兵庫県立美術館王子分館
原田の森ギャラリー
- ▼ 井後雅堂・石留之然・稲垣華扇・北田成蒔・東尾高岳
伍葉展
会期 一月二三日～二四日
会場 神戸市みなせ画廊
- ▼ 島根篆刻会(足立瑞泉)
第三六回島根篆刻展
会期 七月一七日～一九日
会場 松江市中国電力ふれあいホール
- ▼ 井谷五雲・小林圃・真鍋井蛙
第三四回六瓣会篆刻作品展
会期 八月二六日～三〇日
会場 京都文化博物館

協会行事

- 第三二回日本篆刻展
四月二五(水)～一九日(日)
兵庫県立美術館ギャラリー棟
- 授賞式
四月一八日(土)
ANAクラウンプラザホテル神戸
- 第七回日本篆刻家協会役員展
四月二五日(土)～六月二五日(木)
古河篆刻美術館
- 第八回中央研究会
八月三二(土)～二四日(月)
舞子ピラ
- 企画委員会
一月二日(第二回) 四月一九日(第三回)
八月三日(第三回) 一〇月二四日(第四回)
- 予定
- 常務理事会
二月一四日(土)
大阪市 錦城閣
- 海外交流
「日中篆刻家交流展」
平成二七年秋
広西省南寧
- 日本篆刻家協会訪中団派遣
二月一八日(水)～二三日(月)
南寧・桂林・上海

平成二八年度

理事会・総会・新年会

一月一〇日(日)

大阪ベイタワーホテル

第三二回展 出品締め切り 一月末

第三三回展 審査会

二月二日(日)
神戸市産業振興センター(神戸ハーバーランド内)

生誕百年 梅舒適展

三月三日(水)～三月二七日(日)
兵庫県立美術館 本館 ギャラリー棟

第三二回日本篆刻展

四月二〇日(水)～二四日(日)
兵庫県立美術館 本館 ギャラリー棟

授賞式

四月二三日(土)
ANAクラウンプラザホテル神戸

第八回日本篆刻家協会役員展

四月二九日(金・祝)～六月二三日(木)
古河市立篆刻美術館

第九回中央研究会

八月六日(土)～八日(月)
シーサイドホテル舞子ピラ

編集：会報部

酒居石荘 榊原晴夫 木村容庸
内田真弓 戸出九廬

お気づきのこと、ご意見など
事務所までお寄せください。

FAX 072-760-3853
MAIL info@n-tenkokuj.jp